

平成23年10月31日
北九州市保健福祉局

(仮称) 第三次北九州市高齢者支援計画に
係る意見等への対応

各論 1

〔基本目標 1〕

いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち

(※ 生きがい・介護予防分科会)

次期高齢者支援計画全般・その他

○北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会 委員意見

	主な意見	対 応
1	介護保険制度の問題を議論するため、地域包括支援センターや統括支援センターに寄せられた苦情や、生活に関する問題の情報を集約し、計画づくりに活かしてほしい。	地域包括支援センター・統括支援センターの相談実績の他、同センター職員を対象とした相談に関する調査結果を計画に反映させる方向で検討する。
2	作った計画を市民にどう周知し、啓発するか、明記すべき。	次年度以降、策定した計画を市政だよりや出前講演の実施のほかPR手法を幅広く検討し、積極的なPRに取り組む。
3	高齢者の意見を汲み取れるよう、委員も心がけて計画を策定していただきたい。また、実際のサービス利用者の意見を吸い上げられるようなパブリックコメントを実施してほしい。	地域ふれあいトークにて、利用者である市民意見の聴取を行った。地域包括支援センターへの相談内容の分析等により、利用者の意見の反映に努めてまいりたい。
4	目標を具体的・定量的に表示できるようにならないか。	第二次高齢者支援計画と同様に、可能な限り計画書に数値目標を掲載する。

次期高齢者支援計画全般・その他

○関係団体の意見を聞く会での意見(平成23年8月23日開催)

	主な意見	対 応
1	次期計画で、元気な高齢者にポイントをあてた施策を検討してほしい。	次期高齢者支援計画では、「いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち」を基本目標の一つに掲げ、元気な高齢者に関する施策を推進することとしている。
2	高齢者が亡くなるときに、安らぎをもって死を迎えられるかどうかがこの計画には足りない。	本人や家族が希望すれば、住み慣れた場所で療養生活を継続し、出来れば最期を迎えたいというニーズを実現するためには、地域全体で在宅療養患者やその家族を支えていくまちの実現を図ることが必要である。特に在宅医療の取組みについては、次期高齢者支援計画の基本目標である「住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」の実現に向け、「かかりつけ医の市民への定着促進」を図ることとしており、その中で、今年度から北九州市医師会の協力を得て、医療関係者や市民に対して、在宅緩和ケアを含む在宅医療の推進・啓発活動を行うこととしている。
3	どういうふうに医療機関を受診したらいいのかという具体的な情報について市民にしっかり伝えてほしい。	総合保健福祉センター内にテレフォンセンターを設置し、常時3名の相談員が24時間体制で、急な病気やケガについて相談の受付や状況に応じた医療機関の案内を行っている。今後ともさまざまな機会を捉えて、このテレフォンセンターの市民への普及啓発に努めていきたい。
4	看護師を含めた医療人材の育成は、行政の支援がないとやっていけないので、よろしく願いたい。	医療技術の進歩、患者の高齢化、在宅医療の推進等により、療養生活を支援する専門家としての看護職員の役割はますます重要となっている。そのため、本市では、次世代の地域医療を担う人材の確保を図るため、高校生を対象にした1日看護体験や医師会立の看護学校への運営補助などの看護職員確保対策を実施している。
5	居宅で高齢者が薬を飲まずに残したりするケースが多いということで全国的にも調査もあっているが、北九州市でも取り組めないか。	市民センター等において、薬剤師を講師とした「くすりのセミナー」を開催し、医薬品の適正使用やかかりつけ薬局等について市民への普及啓発に努めている。
6	ダニとかハエとか消毒など公衆衛生関係も薬剤師の仕事の一つなので、市としても高齢者の公衆衛生を支援するかたちで働きかけていただきたいと思っている。	保健所では、市民からの衛生害虫等に関する相談業務を行っているが、駆除等については自ら、あるいは専門業者に委託して実施するように助言している。

次期高齢者支援計画全般・その他

○地域ふれあいトークでの意見(平成23年8月8日～24日 7区で開催)

	主な意見	対 応
1	計画のPRを積極的にしてほしい。(若い層へもっとPRをしてほしい。DVDを作成し、地域で活用させてほしい。共助・公助の部分をもっとPRすべきではないか。)	計画について市政だよりや出前講演をはじめ、市ホームページの活用など様々な手法により、積極的なPRに取り組む。
2	自治会の活性化。(加入のメリットを与えてはどうか。加入率の低下を受け、具体的な対策を考えてほしい。強制的に加入させることはできないのか。役員の高齢化が進んでいる。)	自治会加入者へのメリットや加入を強制させる仕組みについては、自治会が地域で独自の活動を行う団体であることや自治会への加入は個人が判断するものであることから、市としては困難であると考えている。しかし、住みやすい地域をつくるためには、自治会・町内会の活性化は大変重要であり、自治会・町内会が行う加入率向上の取り組みを、市としても引き続き支援していく。
3	福祉協力員の増員などふれあいネットワークの活動の充実が必要だと思う。	ふれあいネットワーク事業は北九州市社会福祉協議会の自主事業であり、地域において援助の必要な人への見守り、支え合いを行っている。本市としてもさらなる活動の充実を支援していきたい。
4	空き地を利用したデイケアの車の待機場所を確保してほしい。	民間の空き地の使用については、所有者と介護事業者とで利用契約を結んで利用することになる。なお、市としては駐車許可制度の弾力的な運用を警察へ要望している。

基本目標1 いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち
 施策の方向性1 健康づくり・介護予防の充実
 基本的な施策1 生涯を通じた健康づくり・介護予防の促進

○北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会 委員意見

	主な意見	対 応
1	市が取り組んできた介護予防事業について、実際にはまだ十分には知られていないのではないか。	今後とも各事業の周知を積極的に図るとともに、介護予防の普及・啓発に努める。
2	認知症のサポート活動をやっているボランティアや、NPO、社会福祉協議会のいきいきサロンなどに体操の資料を配り、指導に出向くなどすれば需要があるのではないか。	ボランティア団体や地域の身近な集まりの場であるいきいきサロンなどにおいて、パンフレットの配布やきたきゅう体操の体験会を開催するなど、普及啓発の方法を工夫していく。
3	高齢者尿失禁予防は、掘り起こせば対象者がかなりいる。未開拓の部分ではないか。	より多くの女性が参加できる教室形態や効果的な普及啓発のあり方について検討する。

○関係団体の意見を聞く会での意見(平成23年8月23日開催)

	主な意見	対 応
1	現在の介護予防事業の取組みは運動主体である。運動だけでなく、脳トレーニングを中心とした「頭の介護予防事業」の取組みをやっていただきたい。	一次予防事業として、認知症予防教室を各区(校区を含む)で展開している。新たに(仮称)「高齢者のための脳の健康教室」の実施を検討する。

基本目標1 いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち

施策の方向性1 健康づくり・介護予防の充実

基本的な施策1 生涯を通じた健康づくり・介護予防の促進

○地域ふれあいトークでの意見(平成23年8月8日～24日 7区で開催)

	主な意見	対応
1	民間のスポーツ施設の利用も健康マイレージ事業のポイントの対象にできないか。	民間スポーツ施設を健康教室等で利用する場合は、主催者に事業登録していただき、ポイントの対象としている。
2	健康マイレージ事業の見直しをしてはどうか。(対象事業を市内で統一する。景品の発送時期の見直し。パンフレットの発行部数の見直し。)	健康マイレージ事業は、市民が身近な地域で継続的に健康づくりに取り組むことができるように、地域が主体となって事業展開できる仕組みを検討する。その中で、景品の発送時期や効率的かつ効果的なPR方法等についても検討する。
3	特定健診・特定保健指導を市民センター単位より、もう少し小さな単位で行うことを検討してほしい。	北九州市国民健康保険特定健診は、区役所や市民センター等で行う集団健診の他、身近な医療機関が行う個別健診で受診することも可能である。
4	市民センターは地域の拠点であり、健康づくりの促進について、市民センターを活用した講演会やイベントの開催を行ってはどうか。	講演会やイベントは、その規模によって、市・区・地域を単位として開催しており、地域レベルで開催するものについては、できるだけ市民センターの活用を図っている。
5	健康づくり関連の事業にかなり力を入れていることが理解出来た。市民にこれらの情報を流すことが大事だと思う。	今後とも各事業の周知を積極的に図るとともに、介護予防の普及・啓発に努める。

基本目標1 いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち

施策の方向性1 健康づくり・介護予防の充実

基本的な施策2 効果的な介護予防の取り組みの推進

○北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会 委員意見

	主な意見	対応
1	介護予防を受けた人の生活がどう変わったか、調査・研究すれば、今後のプログラムづくりにもつながる。	二次予防事業参加者へは、おおよそ3～6ヶ月後に生活についての聞き取りを実施し評価をしている。この聞き取りの中から効果的なプログラムのヒントとなるものがあれば参考にしていきたい。
2	複合型プログラムの中で認知症やMCI(軽度認知障害)の予防・対策を実施してはどうか。	認知症やMCIの予防・対策について、すでに一次予防事業として実施している。また、複合型プログラムでは、閉じこもり予防を目的に運動、口腔、栄養のほか、認知症予防等の内容も盛り込んでいきたい。なお、新たに(仮称)「高齢者のための脳の健康教室」の実施を検討する。

○関係団体の意見を聞く会での意見(平成23年8月23日開催)

特になし

○地域ふれあいトークでの意見(平成23年8月8日～24日 7区で開催)

特になし

基本目標1 いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち

施策の方向性1 健康づくり・介護予防の充実

基本的な施策3 健康づくり・介護予防を支援する仕組みの充実

○北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会 委員意見

	主な意見	対応
1	健康づくり、介護予防と生きがいづくりは、連動させることで非常に効果があがると思う。例えば、きたきゅう体操を元気高齢者がインストラクターとなってボランティアで広めていけば、一気に広がるのではないか。また、きたきゅう体操は、指導者がいればもっとやりやすいように感じた。	きたきゅう体操の普及員養成研修など、地域で普及していくためのリーダー育成等について検討する。
2	口腔教室は今のところ順調に進んでいるが、教室に通っているときはよくても、卒業後に行くところがないといった問題がある。	本人の希望により、地域包括支援センターが、地域で開催している健康づくり事業等のご案内をしている。今後も、地域事業の情報収集に努めたい。

○関係団体の意見を聞く会での意見(平成23年8月23日開催)

	主な意見	対応
1	推進協の健康生きがいづくりと市民センターを中心とした健康づくり事業は内容が重なっている。人的にも予算的にも効率的に行えるよう検討してほしい。	各区の特性に合わせて効果的に事業を推進できるよう、お互いの連携を図っていく。

○地域ふれあいトークでの意見(平成23年8月8日～24日 7区で開催)

1	高齢者の健康増進として、各公園(大小問わず)への健康器具の設置をしてはどうか。	平成23年度より健康づくりを支援する公園整備事業として、各区1箇所程度の拠点となる公園に、高齢者の健康維持・増進に特化した健康遊具を設置している。身近な公園については、公園整備を行うときに地域住民の意見を聞きながら設置している。
---	---	--

基本目標1 いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち

施策の方向性2 生きがい・社会参加・地域活動の推進

基本的な施策1 教養・文化・スポーツ活動の促進

○北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会 委員意見

	主な意見	対 応
1	メール配信やインターネットを使って、体操やイベントの情報提供を行ってはどうか。	本市のメールマガジン「メールニュース北九州」を活用した健康づくりに関する情報提供を検討する。 また、高齢者の参加しやすいボランティア、生涯学習、仲間づくりに関する情報を収集し、インターネット等で提供する仕組みづくりについて検討する。

○関係団体の意見を聞く会での意見(平成23年8月23日開催)
特になし

○地域ふれあいトークでの意見(平成23年8月8日～24日 7区で開催)
特になし

基本目標1 いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち
 施策の方向性2 生きがい・社会参加・地域活動の推進
 基本的な施策2 社会参加のための人材育成・環境づくり

○北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会 委員意見

	主な意見	対 応
1	老人クラブの会員数が減っている。加入促進のための施策を行うべきだ。	老人クラブの加入促進については、老人クラブ独自の活動に加え、本市としても様々な支援を行っている。引き続き支援を行うとともに、老人クラブの意見も聞きながら工夫できないか検討する。
2	社会参加のための人材育成・環境づくりということだが、具体的にどういった場所でどういった人が活動するかが大事である。健康づくり推進員のように具体化してはどうか。	高齢者が参加しやすいボランティア活動等に関する情報収集、提供等の仕組みづくりを行うことを検討する。
3	事務局(案)の「生きがい・社会参加・地域活動の推進」の項目は、「①社会参加のための人材育成」、「②多様で主体的な社会貢献活動の促進」、「③教養・文化・スポーツ活動の促進」となっているが、まずは、生涯学習者等の拡大を図り、その方々が中心となって社会貢献の中心として育成する、という順番があるのではないか。	計画の構成について、「①教養・文化・スポーツ活動の促進」、「②社会参加のための人材育成・環境づくり」、「③多様で主体的な社会貢献活動の促進」に変更する。
4	年長者、シルバー、高齢者などのネーミングはもう少し統一できないか。	事業実施にあたり、対象が60歳以上のものは「年長者」、65歳以上のものは「高齢者」を基本として整理している。 また、法律で名称が決まっているものや民間の事業(シルバー人材センターや老人クラブ)もある。 ネーミングの統一については、できる範囲で工夫する。

基本目標1 いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち

施策の方向性2 生きがい・社会参加・地域活動の推進

基本的な施策2 社会参加のための人材育成・環境づくり

○関係団体の意見を聞く会での意見(平成23年8月23日開催)

	主な意見	対応
1	戸畑区には1地区だけいこいの家がなく、社会参加のための人材育成の研修がなかなかできない。いこいの家がないところにはどんな支援があるのか。またいこいの家は設置するのか。	年長者いこいの家の新設は凍結している。また、利用者の減少、館ごとの利用状況に幅があること、老朽化対策など課題があり、今後の対応については検討していきたい。また、市民センターなど地域のコミュニティ施設の有効活用をお願いしたい。
2	ボランティアをやりたい人が地域にたくさんいる。具体性のあるこれだったら簡単にやれますよというものを相談しながら行動に移せたらと思う。	ボランティア活動については、各区の社会福祉協議会が運営するボランティア・市民活動センターがあり、様々な支援を行っている。是非ご相談いただきたい。
3	周望学舎の建替計画はあるのか。周望学舎の月謝を千円に戻してほしい。多くの方が利用されるよう宣伝をお願いしたい。	周望学舎の建替については、今後の課題であると考えている。受講料については、現在のところ、見直す考えはない。様々な機会を利用して、積極的な広報に努めたい。

基本目標1 いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち

施策の方向性2 生きがい・社会参加・地域活動の推進

基本的な施策2 社会参加のための人材育成・環境づくり

○地域ふれあいトークでの意見(平成23年8月8日～24日 7区で開催)

	主な意見	対 応
1	<p>地域活動のための人材育成(具体的に示してほしい。指導者への研修が必要。地域のリーダーの育成(活動助成・資金援助など)、年長者大学の卒業生の活用)</p>	<p>活発な地域活動を実施するためには、熱意と創意にあふれた地域リーダーの存在が必要であるため、地域団体が行うまちづくりの研修会に専門家を派遣したり、校区まちづくり支援事業を活用し、地域の人材育成の取り組みを支援している。</p> <p>今後も、自治会・町内会が行う新任会長研修等の支援の充実等に取り組みながら、地域のリーダーの育成に努めていく。</p> <p>また、年長者研修大学校では地域づくり活動に関する講座など、また生涯現役夢追塾ではNPO・コミュニティビジネスコースを設けるなど、地域活動のための人材育成を行っている。</p>
2	<p>地域で集まれる場所(身近な場所で活動)を充実してほしい(サロン活動、いきいの家や市民センターの施設の拡充)</p>	<p>年長者いきいの家については、市民が安心して利用できるよう適宜、補修工事を行っているほか、熱中症対策として、エアコンを設置するなど、利便性の向上に努めている。</p> <p>市民センターについては、1小学校区に1ヶ所整備しており、老朽化対策及び、エレベーターや多目的トイレ設置などの施設機能向上を計画的に行っている。また、市民センターのない校区等については、地元と協議しながら、順次サブセンターの整備を進めている。</p>
3	<p>子供と高齢者達と一緒に遊べるような施設があればいいと思う。これによって高齢者の生きがいなどになればと思う。</p>	<p>現在、市民センターを拠点として世代間交流の取り組みが広く行われている。加えて、一部ではあるが、年長者いきいの家を活用した子どもとの交流が行われている。</p>

基本目標1 いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち

施策の方向性2 生きがい・社会参加・地域活動の推進

基本的な施策3 多様で主体的な社会貢献活動の促進

○北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会 委員意見

	主な意見	対応
1	働くことは、趣味やレジャーと同じくらいニーズがある。生きがい施策の中に反映できれば、社会参加に広がりができると思う。	高齢者就業支援センターにて高齢者の就業相談等を行うとともに、生きがい就労の場を提供している北九州市シルバー人材センターの活動を支援し、高齢者の社会参加を促進する。
2	高齢者にできる仕事を探している人は多い。夢追塾でも社会的起業のサポートしており、そういう形での生きがいづくりも大事。	生涯現役夢追塾の講座等を通じて引き続き支援を行う。
3	(生きがい・社会参加・地域活動について) 多様なあり方を求めているという状況を含めて考えていく必要がある。	高齢者のライフスタイルや価値観の多様化を踏まえ、生きがい・社会参加・地域活動など様々な支援を行っていく。

○関係団体の意見を聞く会での意見(平成23年8月23日開催)

	主な意見	対応
1	意欲のある高齢者が、自分たちの人生経験を子どもたちに伝えていく「命を伝えるネットワーク」に取り組んでいただきたい。	高齢者による、子どもへの見守りや文化伝承等の活動に対する支援を充実したい。

基本目標1 いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち

施策の方向性2 生きがい・社会参加・地域活動の推進

基本的な施策3 多様で主体的な社会貢献活動の促進

○地域ふれあいトークでの意見(平成23年8月8日～24日 7区で開催)

	主な意見	対 応
1	高齢者への就労支援に取り組む必要があるのではないかと。	高齢者就業支援センターにて関係機関・団体と連携して、高齢者の多様なニーズに応じたきめ細かな就業相談等を行っている。
2	元気な高齢者は社会に貢献したり、ボランティアをしたいと思っている。そのことも合わせて考えるべきである。	高齢者が主体となり、高齢者を主な対象とするボランティア等の社会貢献活動を実施する団体への支援を充実させたい。
3	元気な高齢者が主体となって高齢者支援に関わる事ができる体制づくりを行政で構築して頂ければ良いと思う。	高齢者が参加しやすいボランティア活動等に関する情報収集、提供等の仕組みづくりを行うことを検討する。
4	老人会のボランティア活動を活発化させるため、各地域の老人会の活動報告を提出させ、活動内容・活動実態に対して報償すればいいのではないかと。	老人クラブへの助成金については、活動実績に基づき、精算を行っている。
5	元気な高齢者がたくさんいますので、高齢者が仕掛け人になって”新地域共同体”をつくるようにしてほしい。	年長者研修大学校や生涯現役夢追塾では、地域活動を担う人材の育成を図っている。 また、高齢者等がグループを結成して地域活動を始める後押しをするため、まちづくり参画チャレンジ事業を行っている。
6	有償運転ボランティアの活動場所を増やしてほしい。	北九州市社会福祉協議会と連携しながら、ボランティア活動の活性化を図っている。
7	無償ボランティアを有償ボランティアで活性化してはどうか。	無償ボランティア、有償ボランティア、それぞれ活性化を図りたい。
8	地域における成年層のボランティア活動、参加支援できる対策が望まれるが、住民として具体的・組織的なものを創っていききたい。	今後とも住民の自主的なボランティア活動を推進したい。